

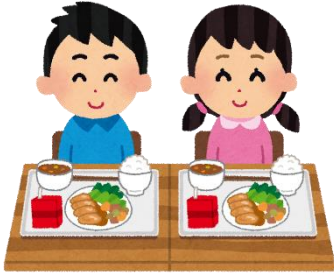
豊南小学校・校長室だより

平成30年(2018年)4月16日
発行者 西山 博章

児童数配布

新年度スタートです！！

第1号
(通算141号)



6日に入学式を行い、新入生35人が本校の門をくぐりました。あれから1週間あまりが経ち、その間に新年度の始業式が9日にありました。在校生はそれぞれひとつ上の学年に進級し、新しい気持ちで新学期をスタートさせたところです。

そして今日、1時間目に新1年生と2年生～6年生までの在校生があらためて『対面』しました。「対面式」では、緊張した面持ちで1年生が、担任の村上先生の指導のもと、在校生に「精一杯、心をこめた」言葉と歌を披露してくれ、在校生たちから

あたたかい歓迎の拍手を受け豊南小学校の仲間としてしっかりと加わりました。

新1年生の中には、3月に「子ども園」の卒業式で顔を合わせた子どももいるのですが、そのときの表情とは違って、一回りも二回りもしっかりしているのが見てとれました。子どもたちが、確実に成長していることを実感した次第です。

現在の本校の在籍数は1年生から6年生まであわせて「271人」です。学校規模としては「小規模」です。しかし、小規模なりのメリットもあると思っています。

ちなみに毎朝、登校門で子どもたちの登校を見守っていると、子どもたちの表情が「普段」と違っていることに気がついたり、またいつも登校してくる時間に、その姿が見えなかったり等々、本校の子どもたちの素顔を知ることができます。また、そんな中で、表情が曇っている子どもがいれば、逐一、担任の先生と連絡を取り、子どもを見守っていくことができます。これも、「小規模校」ならではの「メリット」だと思っています。

今朝の「対面式」で子どもたちにこんなことを話しました。—『小さな学校、大きな家族』…この言葉は私の好きな言葉のひとつです。このことは以前にも校長室だよりで書いたことがありますが、学校規模から言うと、本校は「小さな学校」ですが、これを「ひとつの家庭」と考えると、それは「とてもとても大きな家族」の集まりと考えることもできます。

「家庭」「家族」は、いつの時代でも、人が唯一、心から緊張を取り除き、ありのままの自分であることのできる「場」であり、たとえ親子喧嘩をしたとしても、そこには人と人の心の温かな「つながり」があります。

「核家族」、「少子化」という言葉が使われだしてから久しいですが、そんな時代だからこそ、小規模校であることを逆手にとって、学校そのものを「あたたかい家庭、家族の集まり」のような場になって欲しいと思っています。

そして、そんなあたたかな「場」で子どもたちが日々の学習や生活をおくってくれれば、子どもたちの「育ち」をしっかりと促すことができると信じています。

そんな話をしたのですが、子どもたちはしっかりと私の顔をみて話を聞いていてくれました。そんな学校を目指して、先生方とともに頑張っていきたいと考えています。そのためには、ご家庭のご理解と、ご協力が不可欠です。どうか、1年間学校と一緒に、子どもたちの「育ち」を応援してくださいませようお願いします！

☆☆☆23日(月)から1年生の給食がはじまります！ お手伝いできる1年生の保護者の方おられますか？

在校生は、11日から給食がはじまっていますが、いよいよ1年生も、来週月曜日、23日から給食がはじまります。子どもたちは、みんなと食べる給食がはじまるのを、期待と不安が入り混じった気持ちで待っています。

配膳から片付けまで、自分たちでおこなうのもワクワクしているようです。

とは言うものの、はじまっていきなり手際よくできるわけではなく、担任の先生のきめ細かな指導で少しずつできるようになるのです。

そこで、1年生の保護者の皆さんにお願いですが、23日(月)から始まる1年生の給食の配膳等をお手伝いしていただける方がおられましたら、連絡帳などで担任の村上先生までお知らせください。具体的な時間などは、村上先生から伝えていただければと思います。よろしく願いいたします。

To be continued (次号に続きます)